



京都市教育長 稲田 新吾

この度、第39回京都府高等学校総合文化祭の開催を心よりお慶び申し上げます。

京都の文化芸術は、市民の日々の暮らしに息づくことにより、豊かにはぐくまれ、生活に潤いやゆとりをもたらすとともに、世界に誇る京都のまちの都市格の礎となって参りました。

長引くコロナ禍にあって、文化芸術の活動も大きな制約を受けましたが、一方で、私たちは、その大切さに改めて気づくことができました。高校生の皆さんも、本文化祭に向け、様々な工夫の下で練習や作品制作を重ねてこられたことと思います。一人一人がその成果を如何なく発揮されるとともに、志を同じくする仲間と交流を深め、更に高め合いながら新たな文化芸術の創造と発展に寄与されることを期待しております。

本市においても、令和6年3月の文化庁の全面的移転や令和5年度の京都市立美術工芸高校（現銅駝美術工芸高校）と京都市立芸術大学の、京都駅東部への移転・開校を契機として、文化芸術都市・京都の更なる発展に向け取り組んでまいります。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました京都府高等学校文化連盟をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、本文化祭の成功と、皆様の今後一層の御活躍を祈念いたします。